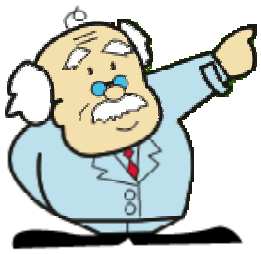


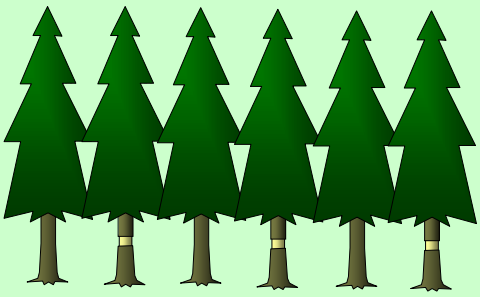
静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター情報
わかりやすい森林・林業 5
研究シリーズ

「巻枯らし」で間伐を省力化

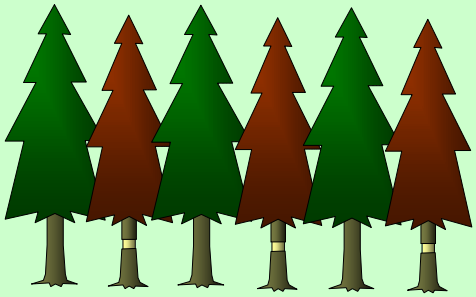
● 巻枯らしとは？

幹表面の樹皮を１周、剥いだり、傷を付け、立木を倒さないで、枯らすことを「巻枯らし」といいます。

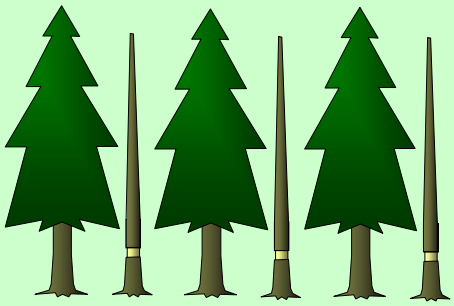
「巻枯らし」による間伐のイメージ



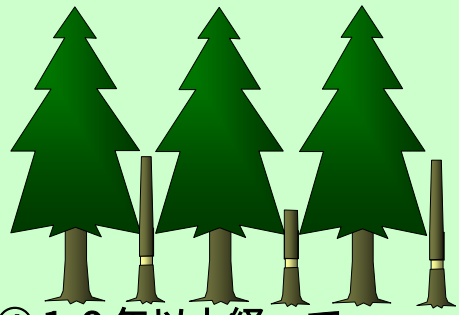
①「巻枯らし」の実施



②約１年後までに完全枯死



③２～３年後に枝が落ちて
林内は明るくなる



④１０年以上経って
木は上部から腐って折れる

立木の状態で木を枯らす「巻枯らし」は、誰にでも簡単に、安全にできます。間伐に応用すれば、林内環境を変えることなく、省力的な間伐が可能です。しかし、害虫の発生、倒木、景観などの問題が危惧されます。

静岡県農林技術研究所森林・林業研究センターでは、「巻枯らし」のそれら問題点について調査をしました。

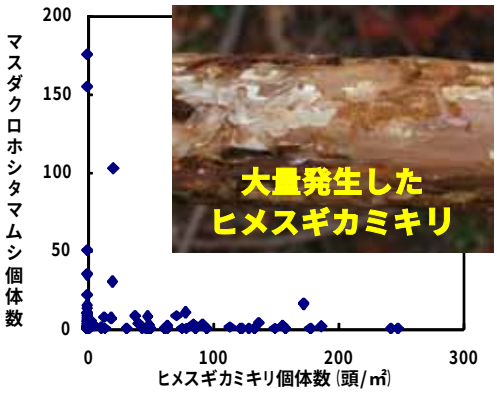
害虫の発生、枯死後の倒木、景観などの問題点について、各種試験を実施し、調査確認しました。

● 害虫の発生は大丈夫？

「巻枯らし」は、完全に枯れる（１年程度）までに、生立木を加害する害虫が大発生し、残った木への影響が危惧されます。

一番怖いスギカミキリ（木を枯らす、材質劣化をさせる）で、大量発生の可能性は低いことが分かりました。

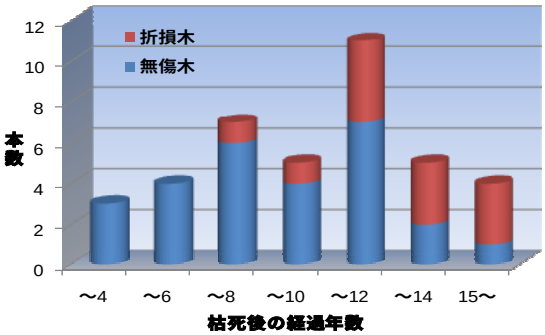
マスダクロホシタマムシ（木を枯らす、条件によって大量発生）は、６月から９月に実施することにより、大量発生せず、心配ないことが分かりました。

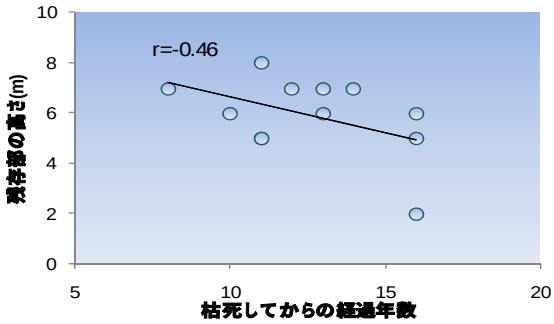


マスダクロホシタマムシは大発生するが、６～９月に巻枯らしを行えば、害虫ではないヒメスギカミキリが大量発生し、他の害虫の発生を抑止することを確認。

● 枯れたあと、倒れない？

「巻枯らし」で枯死させるには長期間を要することから、自然枯死木で調査した結果、ヒノキは 10 年程度までは立っていて、徐々に腐り、上方から折れていくことを確認しました。スギも同様ですが、上方が折れる前に根元から倒木する可能性があります。その場合、かなり腐朽が進行し木は柔らかくなっているので、心配はないと思われます。





枯死後の経過年数と無傷木・折損木の数（左）および残存木の高さ（右）の関係
（浜松市天竜区船明の事例）

● どんな林が対象？

通常、間伐は、伐採木を搬出することが理想です。「巻枯らし」は、手入れ・管理不足の森林が対象です。また、倒木時に危険が伴う道路沿いや景観上（枯れたとき目立つため）問題のある場所は対象から外すべきです。

「巻枯らし」の方法

- ●害虫発生の抑制とやりやすさから、実施時期は６～9 月限定です。
- ●幹を 10 cm以上の間隔で 2 本の切れ目を入れ、樹皮を剥がすだけです。

発行日：平成２０年２月１５日
編　集：静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター
発　行：静岡県森林・林業研究センター振興協議会

〒420-8601　静岡市葵区追手町9-6（静岡県森林組合連合会内）TEL（054)253-0195　　FAX（054)253-2328